宮城民医連
東日本大震災

災害復興ニュース

ニュース　=第９６号=
発行日　２０１２年3月5日
発行　宮城民医連

絶望と不安、仲間を失った悲しみの中から

震災の記録
松島医療生協

3.11 東日本大震災からもうすぐ１年を迎えます。宮城民医連職員として、私たちに何が出来るのか。被災された一人一人が生活再建のために頑張っていることを忘れないことです。

今回は、甚大な被害を受けながらも地域医療を守るため頑張ってきた松島医療生協の取組みを、松島海岸診療所の佐藤良治さんから寄稿頂きました。

松島海岸診療所の被災状況

震災3日目(3/13) 屋外で50～70cm 、屋内35cm浸水

震災3ヶ日目(3/13)　医科待合室

訪問看護ステーションまつしま

在宅酸素療法者を避難させるために緊急訪問し、避難直後に津波で流されました。看護師は津波から走って逃げました。

震災後、
約2時間後のなるせの郷と体育館

3/11 震災当日、松島海岸診療所の医科は３時からの診療開始前で待合室に 5～6 名の患者がおり、歯科は診療室内で数名の患者さんが治療中、デイケア１３名の利用者 訪問看護 ST のスタッフはグループホームや利用者宅でサービス提供中に震災にあいました。ラジオ放送で「大きな津波がくる」との情報を得て、利用者は車椅子のまま２階から１階に運び管理者の掛け声による避難指示で高台にある新富亭に全職員と共に避難し、多くの職員はそのまま新富亭に泊まりこみました。津波の影響は、屋外で５０～７０cm、屋内で 35cm の浸水でした。内科事務室で はカルテ棚が倒れカルテが散乱し、テレビ、エアコン関係全てやられました 。歯科診療室内 ユニット 13 台浸水し 使用できる部品を利用し現在６台修理し 稼働しています。

松島の地形は宮戸島や桂島等に囲まれており 、近隣の市町村に比べ松島の被害が少なかったのはこの島々が守ってくれたと言われています。松島海岸診療所は海岸から直線で１２０メートル、なるせの郷は野蒜海岸からは３キロメートルの距離で、海岸から遠く離れていたなるせの郷の方が壊滅的な被害を受けました。なるせの郷は野蒜小学校の前に建物がありました。鳴瀬地区では地震直後から停電で防犯無線が機能しない中、野蒜小学校が指定避難場所となっており体育館に避難してくる人と車で大渋滞になっていました。地元の人は運河もあるので小学校まで津波が押し寄せてくるとは思ってもいませんでした。震災当日のなるせの郷には利用者 17 名、職員 8 名がいました。周囲のただならぬ状況を察して送迎車両３台に運転手を含み 13 名が乗車し、順次避難準備を始めた時に津波が押し寄せました。2 台は小学校の校庭に流され運転手を含め６名が助かりましたが、もう１台は運河の方に流されました。職員１名と利用者１名は施設近くの自宅に徒歩にて帰宅中 津波に巻き込まれ職員は助かるも利用者さんは死亡。 自動車での避難に間に合わなかった利用者６名と職員４名はなるせの郷２階に避難を開始しましたが、体が不自由な方や 車椅子利用者を２階に避難させるのは困難を極め、津波が瞬時に１階天井まで押し寄せ避難できず 6 名亡くなりました。利用者 12 名、職員 3 名の 15 名が亡くなりました。この状況が把握できたのは数日たっての事でした。

３/１２夕方、運転していて助かった職員が新富亭に来て、状況が初めてわかりました。利用者の家族からの問い合わせが相次ぎ、被害の少ない松島の家族からは職員が命をかけて助けたにも関わらず強く非難されました。３/１３ 手分けして、病院、遺体安置所の行方不明者の捜索を行いました。傷つき変貌した遺体と接し職員の精神的負担は極限に達するも、行方不明の仲間を早く探し出したいという思いで率先して引き受けてくれました。隣接する避難所でもあった野蒜小学校と体育館にも津波が押し寄せ多くの方がなくなりました。野蒜小学校校舎には津波で流された車両が突っ込んでいました。津波でながされたなるせの郷の送迎車は、船のように浮いて校舎２階テラスから運転手を含め 5 名が救出されました。もう 1 台の運転手は津波にのみ込まれながら自力で泳いで助かりました。なるせの郷は 天井まで津波に浸かっています。ここに遺体数体があることを確認したので、救援活動中の自衛隊に対応をお願いしましたが、生きている可能性のある人が先だと後回しにされ、当日は身元確認ができませんでした。施設内には、利用者に寄り添うように職員の遺体がありました。２階もあとわずかで津波が押し寄せる所でした。**（復興ニュース 97 号へ続く）**